

令和7年度

府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

原爆投下から80年を迎えた令和7年8月6日、原爆慰霊碑のある役場前河川敷で、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われ、町内小中学校の児童会・生徒会の代表が参加しました。式では、生徒会代表が、小中学生が作成した千羽鶴を奉獻するとともに、平和へのメッセージを述べました。

平和へのメッセージ

みなさんは、どのように原子爆弾や戦争の恐ろしさについて学びましたか。

小学2年生だった私は、授業で「平和」について学びました。更に詳しく知りたいと思った私は、被爆者である祖父の話聞くことにしました。

「おじいちゃん、最近ニュースでもやりよるけど、戦争って何があったん。」

当時の様子をたくさん教えてもらえと思っていたのですが、祖父の反応は私の想像とは全く違ったものでした。

祖父の「もう聞かないでほしい」と訴えているような表情を、今でも鮮明に覚えています。

私はそれ以来、祖父に原爆の話聞くことができませんでした。資料や写真を見て原爆の恐ろしさを知っているつもりでしたが、被爆された方々は、多くの辛く、苦しい思いを持ち続けておられることが分かり、原爆の恐ろしさを身近に感じました。私は、この経験を通して、辛い体験を私たちに話してくださる伝承者の方の、勇気や思いを知り、「伝える」ことの重要性を感じました。

80年前の今日、広島に原子爆弾が投下され、たくさんの建物や生き物、そして、当たり前前の日常が失われました。しかし、広島の路面電車は、原爆投下の三日後から走り出し、人々の復興のシンボルとなりました。

その路面電車が、先日、8月3日に「駅前大橋ルート」として広島駅の二階に乗り入れる形で開通しました。被爆80年となった今も、広島は、日々、進化を続けています。

また、昨年12月には、日本原水爆被害者団体協議会が、ノーベル平和賞を受賞しました。核兵器廃絶を訴え続けてきた活動が世界に認められたことは、世界平和への大きな一歩になったように感じました。

今、大阪では、大阪・関西万博が開催されています。万博のキャラクターであるミャクミャクには、受け継いできた「命・文化・知恵」を脈々とつないでいくという願いが込められています。

一方、世界に目を向けると、今でも多くの戦争や紛争が起こっています。80年前の日本と同じように、人々は食べるものや寝る所に困り、先の見えない未来に不安を感じながら生活をしているのではないのでしょうか。平和学習をすればするほど、戦争の恐ろしさを感じています。

80年前の広島に住む人々が平和を願い、行動に移したことで、今の私たちの生活があります。

次は、私たちの番です。

これまで繋いできた多くの人々の思いを受け取り、これからの未来をつくる人たちへ戦争の恐ろしさや平和の大切さを伝えていきます。

府中緑ヶ丘中学校 竹原 蓮夏

府中中学校 向井 瑠依



府中小



東小



北小



府中中



南小



中央小



府中緑ヶ丘中



府中中学校 向井さん、府中緑ヶ丘中学校 竹原さんが原稿を見ることなく思いを込めて語る姿は、これからの平和な未来をまっすぐと見つめているかのような様子でした。



町内小中学校の児童生徒が平和への祈りを込めて作成した千羽鶴を、府中中学校 丹羽さん、小林さん、府中緑ヶ丘中学校 佐々木さん、中津さんが奉獻しました。

